（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスオハナホア			
○保護者評価実施期間	2026年3月16日	～	2025年3月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22	（回答者数）	18
○従業者評価実施期間	2026年3月10日	～	2025年3月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	13	（回答者数）	13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年6月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別の言語レッスン 児童の発達段階に応じた個別言語支援を実施しています。言葉の発達に課題がある児童に対して、専門的なアプローチで効果的な支援が行われ、コミュニケーション能力の向上が見られます。今後はICTの活用や家庭との連携強化が期待されます。	別の言語レッスン 児童一人ひとりの言語発達段階に合わせて、オーダーメイドの支援計画を作成しています。視覚支援（絵カードなど）を取り入れ、成功体験を積み重ねながら楽しく取り組めるよう工夫しています。	個別の言語レッスン 今後はタブレットやICT教材を活用し、児童の興味を引き出しながら言語発達を支援していきます。また、保護者との連携を深め、家庭での関わり方についても共有できる仕組みを整えていきます。
2	食育プログラム 調理体験や食材学習を通じ、楽しみながら食への理解を深めています。食事のマナーや衛生意識も自然に育まれており、保護者からも好評です。今後は地域の食文化を取り入れるなど、内容の幅を広げていくことが望まれます。	食育プログラム 旬の食材を使った簡単な調理や、五感を使った食材探しゲームなどを取り入れ、楽しみながら学べるよう工夫しています。発達段階に応じて役割分担を行い、成功体験を共有できるようにしています。	食育プログラム 季節や地域行事に関連した食育活動を導入し、文化的背景にも触れられるようにします。さらに、家庭での食育と連携できるよう、レシピ配布や親子参加型イベントの実施も検討しています。
3	PC教室（ICT支援） タイピング練習や情報検索など、基本的なPCスキルを身につけるプログラムを実施。子どもたちの興味関心を活かしながら、将来に役立つ力を育んでいます。今後はeラーニングとの連携など、より実践的な内容の導入が期待されます。	PC教室（ICT支援） 興味関心を引き出すタイピングゲームや、自分の好きなテーマでの資料づくりなどを導入し、楽しさと実用性の両面から支援。成功体験を積めるよう段階的な課題設定を工夫しています。	PC教室（ICT支援） 将来的に役立つICTスキルの習得を目指し、簡単なプログラミングや動画編集なども段階的に取り入れていきます。個別の習熟度に合わせたカリキュラム化も進め、学びの質を高めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動プログラムのバリエーション 一部の活動が固定化しており、子どもたちの関心や発達段階に応じた柔軟なプログラム展開が不足しています。新しい取り組みの導入や個別ニーズへの対応が必要です。	活動プログラムのバリエーション 限られた職員数や時間、スペースの中で、毎回新しい内容を準備することが難しく、活動がマンネリ化しやすい状況です。児童の個別ニーズに対応する柔軟性も課題となっています。	活動プログラムのバリエーション 月ごとの活動テーマを設定し、職員間でアイデアを出し合って内容を構成します。外部講師の活用や児童の興味をヒアリングするなど、ニーズに合った柔軟な企画力を養います。
2	地域・学校との連携不足 地域の資源や学校との連携が十分に活用されておらず、社会性や実生活に即した支援が限定的です。外部との関係性を強め、より実践的な支援体制を整える必要があります。	地域・学校との連携不足 地域資源の情報が不足しており、学校との情報共有も形式的になりがちです。外部との関係づくりに積極的に取り組む余裕が職員に少なく、担当者の明確化も不十分です。	活動プログラムのバリエーション 月ごとの活動テーマを設定し、職員間でアイデアを出し合って内容を構成します。外部講師の活用や児童の興味をヒアリングするなど、ニーズに合った柔軟な企画力を養います。
3	評価と振り返りの仕組みの不十分さ 支援活動の効果や児童の成長について、定期的な評価や振り返りの機会が少ないため、改善へのフィードバックが弱いです。記録の分析と職員間での振り返り体制の確立が課題です。	評価と振り返りの仕組みの不十分さ 日々の支援に追われ、計画的な振り返りや支援の効果分析が後回しになっています。評価項目が曖昧で、成果の見える化ができていないことも改善の阻害要因となっています。	地域・学校との連携不足 学校や地域施設との定期的な情報交換会を設け、児童支援に必要な情報を共有できる関係づくりに努めます。職員の担当制を導入し、連携の窓口を明確にする工夫も進めていきます。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童デイサービスオハナホア

公表日 2026年6月1日

18　　利用児童数 22　　回収数 18

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16	1		1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく 構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	2		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	18					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	2				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	15	1		2		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17			1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1	1	1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17			1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17			1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17			1		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて 周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16			2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応 マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1	1	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			2		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	18					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	16	1				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18					
	29	事業所の支援に満足していますか。	17			1		

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスオハナホア

公表日　2026年　6月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	2		日により違う
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	1		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	13			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	2		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	3		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	2		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	3	努力している	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	13			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	1		子どもの状況や必要な支援を理解できるようにしてほしい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13			パート職員まで行き届いていない
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	11	1	打ち合わせを必ずしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12			
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	9			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	10			
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	11	1		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	11	1		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11			
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	13			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		インスタの発信	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	1		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13		必ず申し送りがある。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	13			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13			